

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	スクルドエンジェル保育園柿の木坂園
施設所在地	目黒区柿の木坂1-33-18
法人名	SOUキッズケア株式会社

1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

考えてつくる楽しさを味わう～遊びの中のゲームづくり～

＜テーマの設定理由＞

本園には、保育活動の一環として園児がiPadに触れられる環境があり、日頃から「こうしたらどうなる？」「もう一回やってみたい」と試したり工夫したりする姿が見られる。こうした園の環境や園児の姿を生かし、保育士が日常の遊びや興味関心を出発点に、園児が発想したことを形にして試せる活動として「ゲームづくり」をテーマに設定した。

活動の実施にあたっては、プログラミングレッスンを担当する外部講師の助言や教材の使い方を参考にしながら、保育士が園児の発達段階やその日の様子に合わせて、声かけや関わり方を工夫し、継続的な遊びや探究につなげていく。また、レッスン内での体験を日常の保育活動にも取り入れ、園児が自分で作ったゲームで繰り返し遊んだり、友だちと共有したりできる環境を整えることで、学びが広がるよう支援する。

2. 活動スケジュール

発達に応じて段階的に活動を計画した。

- ① iPadやプログラミング教材に親しみ、基本的な操作や使い方に慣れる
 - ② 簡単な動きや仕組みを試しながら、自分の発想を形にする経験を重ねる
 - ③ ゲーム作りに発展させ、試行錯誤しながら工夫する活動を行う
 - ④ 作品の発表や見せ合いを通して、互いの考えに触れながら学びを深める
 - ⑤ 上記の経験を踏まえ、プログラミング教材を用いてロボットの道筋を考える活動へと発展させた。
- また、月2回程度の外部講師によるレッスンも活用し、日常保育の中でも継続的に取り組めるよう環境を整えた。
月2回程度プログラミング専任講師によるレッスンも活用し、日常保育の中でも継続的に取り組めるよう環境を整えた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

iPadやプログラミングアプリ、補助教材を準備し、園児の発達に応じて無理なく取り組めるよう環境を整えた。また、これらの教材は活動時だけでなく日常保育の中でも継続的に活用できるよう配置し、興味や関心に応じて主体的に取り組める環境とした。さらに、落ち着いて操作や試行錯誤ができるよう活動スペースを工夫し、集中して取り組める環境構成とした。

4. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

iPadを用いてキャラクターを動かしたり簡単なゲームを作ったりする活動に取り組んだ。活動では、まず基本的な操作に慣れることから始め、簡単な指令を与える経験を積んだ後、徐々に複数の指令を組み合わせて画面上でゲームを構成していくなど、発達段階に応じて段階的に内容を深めた。また、自分でキャラクターを描いたりコース配置を考えたりする場面を取り入れることで、描画を通じた創造性の育成にもつなげた。

さらに、プログラミングの補助教材としてロボットを活用し、「どのような指令を出せば意図した通りの動きになるか」を順序立てて考える活動を行った。活動にあたっては、保育士や外部講師がすぐに答えを示すのではなく、子ども自身が試行錯誤しながら考えられるよう関わり方を工夫した。

活動の中では発表や見せ合いの時間を設け、互いの工夫に気づき言葉で伝え合う姿が見られた。これらの経験を通して、主体性や協働性、傾聴する力の育成につながった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

iPadでのゲーム作りでは、「どうやったら動くな？」「順番を変えたらできたよ」など、試行錯誤しながら筋道を立てて考える姿が見られた。年齢や発達に応じて、簡単な操作の中で動きの変化に気づく姿から、「こうするとこうなるのではないか」と見通しや予想をもって取り組む姿へと広がりが見られた。

また、プログラミング教材でも、友だちと見せ合いながら「こうするといいよ」と伝え合い、互いの考えに触れる様子があった。こうした関わりの中で、自分との違いに気づいたり、新たな方法を取り入れたりする姿が見られた。

保育士は園児の気づきや発想に寄り添いながら声掛けを行い、すぐに答えを示すのではなく、考えを引き出す関わりを大切にすることで、園児同士の関わりや思考がより深まるよう支援した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動の振り返りを通して、園児の姿が、単に操作を楽しむ段階から「どうすればうまくいくか」を考え、見通しや予想をもって取り組む姿へと変化していることに気づいた。また、友だちとの関わりの中で、自分とは異なる考えに触れることで新たな気づきを得たり、自分の取り組みに生かしたりする姿が見られるようになってきた。

これらの姿から、保育士がすぐに答えを示すのではなく、気づきや発想を引き出す関わりや、発達に応じて継続的に取り組める環境構成の工夫が重要であると再認識した。今後も、一人一人の発達に応じた支援を行いながら、主体的に考える力を育む活動につなげていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	スクルドエンジェル保育園柿の木坂園
施設所在地	目黒区柿の木坂1-33-18
法人名	SOUキッズケア株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

えいごの ことばで あそんでみよう

<テーマの設定理由>

当園では、外国人講師による英語レッスンを実施しており、日常的に英語の音や表現に触れる機会がある。その中で、子どもたちは英語の音やリズムに耳を傾けたり、挨拶や簡単な言葉をまねしたりしながら、楽しんで関わる姿が見られる。
また、幼児という発達段階において、音や動きへの感受性が高く、言語を「意味」として理解する前に、「音」や「やりとり」として自然に受け取る姿が多く見られる。こうした子どもの姿や反応を日々の保育の中で保育士が捉えてきたことから、本テーマは子どもたちの興味関心に即した内容であると判断し、設定した。

2. 活動スケジュール

発達に応じて段階的に活動を計画し、年間を通して以下の流れで実施した。

- ① 挨拶や簡単な言葉に触れ、音やリズムを楽しみながら外国語に親しむ
- ② 歌や手遊び、絵本を通して、言葉や表現に繰り返し触れる
- ③ 簡単なフレーズでのやりとりを取り入れ、自分の気持ちや考えを表現する経験を重ねる
- ④ 発表や見せ合いの機会を設け、互いの表現に触れながら伝え合う楽しさを感じる
- ⑤ 日常の遊びや生活の中でも言葉を使う場面を広げ、自然なコミュニケーションへとつなげる

また、月2回程度の外国人講師による英会話レッスンを活動の中心に据え、日常保育の中でも継続的に取り入れながら、言葉に親しむ環境を整えた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

英語カードや英語絵じてんを準備するとともに、外国人講師がレッスンで使用するフラッシュカードや音源についても、保育活動の中で活用できるよう整備した。

また、これらの教材を日常保育の中で自由に触れられるよう常設し、子どもたちが興味や関心に応じて主体的に関われる環境を整えた。
さらに、歌やリズムに合わせて言葉に親しめるよう活動スペースを工夫し、安心して言葉に触れられる環境構成とした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

保育士が活動全体を見通しながら、月2回の外国人講師による英会話レッスンを中心に据え、挨拶や歌、絵本の読み聞かせ、簡単なフレーズでのやりとりを行った。

レッスンでは、歌やジェスチャー、カードを用いた活動を通して、子どもたちが音やリズムに親しみながら言葉に触れられるよう工夫した。

また、レッスンで扱った内容を日常保育の中でも継続的に取り入れ、朝の会や帰りの会で振り返る機会を設けることで、園児同士の自然なやりとりへとつなげた。

さらに、英語カードや英語絵じてんを常設し、自由遊びの中でも主体的に触れられる環境を整えることで、日常的に言葉に親しみ、興味・関心が広がるよう工夫した。

言葉を通じたコミュニケーションの楽しさを感じられるよう支援した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

幼児クラスでは、英語の歌や絵本、外国人講師とのやりとりを通して、「Hello!」「Thank you!」などの言葉を楽しみながら発する姿が見られた。また、「これ英語でなんて言うの?」「もう一回やりたい」といった声も聞かれ、言葉や音への関心を高めながら、自分の思いや考えを伝えようとする様子がうかがえた。

一方で乳児クラスでは、英語の歌やリズムに合わせて体を動かしたり、保育者の発音を真似して声を出したりする姿が見られ、繰り返し耳にする言葉に反応しながら、身振りや表情で伝えようとする様子が見られた。

また、子ども同士でも覚えた言葉を使ってやりとりをしようしたり、歌と一緒に口ずさんだりする姿が見られ、関わりの中で学びが広がっていた。保育者は子どもの発言やしぐさを受け止めながら言葉を補ったり繰り返したりすることで、安心して表現できるよう関わり、一人ひとりの発達に応じて言葉やジェスチャーを通したコミュニケーションが広がるよう支援した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動の振り返りを通して、乳児クラスでは、歌や絵本のリズム・音に合わせて手足を動かしたり声を出したりして楽しむ姿が見られた。幼児クラスでは、英語カードや英語絵じてんを使った活動の中で、発語しようしたり、友だちの動きや声を真似しながら取り組む姿が増え、関わりの広がりも感じられた。

これらの観察を踏まえ、子どもたちの発想や意欲を引き出す声掛けや、活動の環境構成の工夫が重要であると再認識した。引き続き、乳児クラスでは簡単な英単語や手遊びのフレーズを日常的に取り入れ、幼児クラスでは簡単な自己表現フレーズを増やすなど、段階的な活動の広がりを意識していきたい。